

Ⅱ—3 地域に開けた病院へ ～地域事業所との連携強化～

医療法人社団 KNI 北原リハビリテーション病院
理学療法士 ○藤田諒馬、虎見裕子、森加奈、奥田明、内田成美

【はじめに】北原リハビリテーション病院(以下:当院)では、患者様の個別性を尊重し、それに合わせた退院後の生活サポートに目を向け、地域に根ざした病院、地域の方に頼りにされるような病院を目指している。当院では、昨年度に引き続き、病棟スタッフである理学療法士(以下:PT)1名、作業療法士(以下:OT)2名、医療相談員1名、看護師1名でチームを組み、地域との連携強化に向けた取り組みを以下に報告する。

【目的】患者様一人一人によりよい退院後生活を提供するために、地域事業所と病院の繋がり・連携の質的向上を目的として取り組んだ。

【方法】

- ① 交流会1回(当院の見学と紹介、参加者と職員の座談会)
- ② 地域事業所見学2回(意見交換・情報共有方法の検討を実施)
- ③ 当院リハビリスタッフによる勉強会(テーマ:病院での脳卒中リハビリ)の開催1回(講義・片麻痺者体験の実施)
- ④ 症例検討会1回(病院から在宅復帰された方へのサービス内容の検討・意見交換)を実施した。病院・施設各1症例のプレゼンテーションを実施した。

【結果】

- ①:3事業所6名の参加者、職員11名で開催した。院内見学では、病棟環境や動線の工夫に興味を持ったという声が多く聞かれた。座談会では、日々の疑問を双方の立場から具体例を交え検討が行われた。
- ②:1回目では1事業所、2回目には2事業所の見学を行った。各事業所の特色や役割を知り、情報共有方法の見当については、趣味活動や一人で出来る活動、よりその人らしさを把握したいというニーズがあるということがわかった。
- ③:5事業所12名の参加者、職員12名で開催した。講義は、片麻痺者の特徴やどのような治療を行うかという内容であり、「目的がよくわかった」、「身体の仕組みが理解できた」などの意見が得られた。片麻痺者体験については、「片麻痺者の気持ちが理解でき、今後の関わり方を工夫してみたい」などの意欲的な意見が聞かれた。
- ④:12事業所21名の参加者で開催した。各症例に当時のリハビリ担当者(PT・OT)・担当ケアマネージャーが参加したこと、画像や動画を用いたことで、より具体的な質疑応答が行なわれた。退院後の課題として、地域生活で活動範囲の拡大を図りたいが、そのような資源がないことに問題意識が高まっていた。

【考察】

患者様が退院するにあたって地域事業所の方々とは、サマリー等の紙面上のみで連携していることが多く、病院と地域事業所では、双方のニーズを把握することが難しい。今年度の取り組みでは、新たに体験を盛り込んだ勉強会を導入し、リハビリスタッフから地域事業所への情報共有をする良い機会となったのではないかと考える。また、地域事業所からは、患者様入院中には見えてこなかった問題点や対応方法等のフィードバックを受け、病院での関わり方を見直すきっかけとなった。各々の専門分野の中で共通した認識や知識の共有を、直接顔を合わせ、伝えていくことが地域連携では一つ重要ではないかと考える。来年度は、病院が地域活動に積極的に参加し、地域の中での病院の役割を更に考えていきたい。